

いつも市民の目線で!!

“山さんのホームページ”

www.k-yamasan.com

寝屋川市議会議員

山崎 きくお



平成22年4月号 (第82号)

市制施行六〇周年を前に

「ワガヤネヤガワ」

※上下どちらから読んで同じ語呂合わせです。

プロジェクト

寝屋川市は、来年五月に市制施行六〇周年を迎えます。

寝屋川市は昭和二六年(1951)五月三日に大阪府下で一七番目の市として誕生しました。

当時の人口は約三万人で、その後高度経済成長長期以降に二六万人を越えた時期もあります。最近では少子高齢化等の影響で若干減少し、現在は約二四万三千人となっています。

ブランド戦略基本方針

寝屋川市では、昨年四月から市役所内に『ブランド戦略室』という新しい部署を設け、「新しい寝屋川ブランドの確立」と「まちのイメージアップ戦略」に取り

組んできました。

そして、本年二月に『ワガヤネヤガワ(我が家ねやがわ)プロジェクト』というブランド戦略基本方針を発表しました。

みんなに笑顔と自信を

この基本方針の目的は「みんなのまちに笑顔と自信を満たす」ことです。

〈主な取り組み内容〉

① 香里園ブランドの活用

第41回 山さんのミニ市政報告会

- 日時 4月28日(水) 午後7時30分～
- 場所 若葉町公民館
- ◎ どうぞ、お気軽にご参加下さい。

山さんのプロフィール



姓 名 山崎 菊雄 (やまさき きくお)
 昭和24年5月 富山県氷見市に生れる
 昭和48年3月 関西大学法学部卒業
 元・守口市役所職員
 元・若葉町自治会長
 元・池田校区福祉委員長
 元・二中地区社明委員長
 平成15年4月 寝屋川市議会議員に初当選 (現在2期目)
 現 在 「新風ねやがわ議員団」所属
 総務常任委員会副委員長
 決算審査特別委員会委員
 国民健保運営協議会副会長
 土地開発公社顧問

三月定例市議会

すべて原案どおり可決

三月一日から二四日まで三月定例市議会が開催されました。

そして、市長から提案された「寝屋川市景観条例の制定」などの条例案や平成

二二年度当初予算案などについては、各常任委員会では慎重な審議が行われ、最終日に本会議で討論・採決の結果、いずれも賛成多数で原案通り可決されました。

- ② 京阪電車寝屋川車庫「びわこ号」復活プロジェクト
- ③ 寝屋川市駅周辺回遊イベント「川のあるまち」
- ④ (仮称)寝屋川大学構想

- ⑤ 鉄道4駅起点(京阪萱島駅・JR東寝屋川駅)
- ⑥ 市役所イメージ、市役所ブランドの確立(新しい寝屋川市のロゴの作成)など

寝屋川市議会議員 山崎 きくお 事務所

〒572-0031 寝屋川市若葉町34番10号

TEL. 072-829-1900 E-mail. genkina@k-yamasan.com

大きな声で、元気なあいさつ!!
山さんのあいさつ運動

三月定例議会の予算審議から

生活保護費の急増をどうするか

三月一〇日・一一日の二日間、厚生常任委員会が開催され、平成二二年度の民生費関連予算などの審議が行われました。

生活保護費一〇〇億円越す

予算審議で特に問題となつたのは、生活保護費に関する予算で、今年度初めて一〇〇億円を越す約一一〇億四六〇〇万円（前年度当初予算八九億四八〇〇万円、対前年度比二三・四五％増）が計上されたことから、委員の中から厳しい指摘や生活保護行政の厳正な執行を求める意見が多



国で、生活保護制度を一度根本的に見直す必要がありますね！

く出されました。

生活保護の状況

長引く不況と最近の厳しい経済状況の中で、市民生活を守る最後のセフティネットとしての生活保護制度の役割は非常に重要です。

寝屋川市内の生活保護の被保護者数は年々増え続け、昨年一〇月一日現在で五、六六八人（三、七七八世帯）で、保護率は二三・三〇％（大阪府下の平均は二九・四三％）でした。

※％（パーミル）＝人口一〇〇〇人当りの割合を示します。

就労支援の強化を

生活保護制度は、あくまでも一時的な生活支援を目的とするものです。

そのため、職業あつせんや職業訓練など自立のための就労支援も重要な事業です。

不正受給の防止も

また、委員会では生活保護受給者と年金生活者との不均衡や、様々な不正受給の実態も指摘されました。

「正直者がバカを見ることのないよう厳しく対処すべきである」と多くの委員から指摘がありました。

市民の皆さんの声（要望）が公にだけ実現しました

これまで、私が一般質問などで取り上げてきた「JR東寝屋川駅前の南打上橋の改修（補修と塗装）工事」が国の経済危機対策予算を活用して実

施されることになりました。また、京阪寝屋川市駅東側のエスカレーターの運転時間も午前六時から午後十一時まで延長されることになりました。

山さんのコラム

今日一日を大切に

昔から「一日一生」と言う言葉がある。「今日一日が自分の人生の最後の日だと思つて精一杯生きよ」という意味だが、長く思える一生もよく考へると一日一日の積み重ねであり、永遠に続くものではない。人の寿命は誰にもわからないのだ。

とすれば、必ずいつの日か今日が自分の最後の日となることは確かだ。その日がいづなにか誰も知らない以上、今日のこの日が自分の最後の一日だと思つて生きることも大切だろう。

さて、もし今日が自分の最後の一日だとしたら、私はどんな一日を過ごすだろうか。身边を整理し、家族に感謝と別れの言葉を述べ、友人や知人を訪ねて旧交をあたためるだろうか。それとも、これまで時間が無くて読めなかつた本を取り出し、一日中ゆっくり読んでいるだろうか。